



100人が参加した県コンクリート診断士のセミナー

塩害対策など知識深める

県コンクリート診断士会がセミナー

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）は16日、福井市内の県職員会館で「コンクリート構造物の診断技術セミナー」を開催した。

当日は会員のほか、コンサルや官公庁職員、建設会社などから100人が参加。クレストエンジニア土木調査設計部長の青山實伸氏が「北陸地方

におけるコンクリート構造物の劣化の現状・対策」と題して講義した。

同氏はコンクリート構造物の劣化現象や調査診断方法、対策工法などについて高架橋工事などの事例を引き合いに分かりやすく説明。「凍結防止剤による塩害は、浸透する部位が限定されるため、水切の設置や表面被

覆等の予防保全が有効」などと対策のポイントを話した。

北陸では海風による塩害、アルカリ骨材反応などによるコンクリート構造物の劣化が進行している。今後、コンクリートの維持管理が一層求められるとあって参加者は知識を深めようと熱心に聴講していた。